

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010020

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	遠距離児童生徒通学費補助事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	遠距離児童・生徒通学に伴う支援による通学意欲の向上		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
事業目標	遠距離を理由にした不登校者数 0人		関係例規・法令名	有	雄武町遠距離通学児童生徒通学費補助規程	
住民参加	無		関係個別計画名	無		
住民協働						

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	遠距離児童生徒の通学に対する支援	遠距離児童生徒への定額補助	遠距離児童生徒への定額補助	遠距離児童生徒への定額補助	遠距離児童生徒への定額補助	遠距離児童生徒への定額補助
	児童片道4km以上 生徒片道6km以上 予算の範囲内で補助 7km未満 7,000円/年 10km未満 8,000円/年					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	150	30	30	30	30
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	150	30	30	30	30	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	0	0	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	0	0	0	0	0	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】				
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-休止	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	0人	0人	0人	0人
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	0%	0%	0%	0%
	全体達成率	0%	0%	0%	0%	
	事業進捗状況	-	-			

事業名	遠距離児童生徒通学費補助事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	澤田 朋 朗
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課教育総務係長	武 藤 知 憲

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童、生徒、保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	スクールバスでの登下校が困難な児童世帯の把握及び通学費の助成	
【抱える課題やニーズは】	スクールバスの利用が困難な遠距離通学世帯の負担軽減	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	スクールバスの利用が困難な児童、生徒の保護者に対して、均等な教育機会を確保するために、通学費用の負担軽減を図る。	① スクールバスでの登下校が困難な児童生徒把握	目標年度	平成26年度
			目標値	100%
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	学校への通学意欲が向上し、良好な学校生活を送ることができるとともに、健全な育成及び学校運営の推進が図られる。	②	実績値	100%
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	送迎を要する世帯の把握	学校を通じて遠距離通学児童、生徒の調査を行い、スクールバスでの登下校が困難な世帯の把握を行っています。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	スクールバスの運行経路により対応が困難な児童、生徒は、通学に要する負担が伴うことから、補完する支援として本事業の実施は必要であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	支援を必要とする世帯を把握し、支援体制を整備することができていると判断します。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	可能な限りのスクールバスの利用により、事業費の抑制に努めているため効率的であると判断します。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	スクールバスの運行経路により対応が困難な児童、生徒に対する支援体制を整備することにより、均等な教育機会が確保されているため、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A	
	遠距離通学世帯の負担を補完する支援として、今後も計画どおり事業を進めることが適当であります。	

今後の展開方向
(Action)

	休止	
	児童、生徒間の公平性の確保及び教育機会の均等化を進めるために、必要に応じて対応できる体制が整備されているため休止とするものであります。	

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止